

本研究は中山間地域における多様なアクターによる地域プラットフォームの形成を研究テーマとしています。調査フィールドは本学に近い埼玉県秩父郡横瀬町です。横瀬町が推進する官民連携プラットフォーム「よこらぼ」では、地域の価値創出に向けて多様なアプローチが展開されています。各種メディアでも注目されている横瀬町の取り組みについて、現在調査が行われています。

一方、本学の総合研究所プロジェクトは教員による調査・研究にとどまらず、学生の学びも重視しています。ゼミ学生は横瀬町でのフィールドワークを基本とした活動を行っています。例として11月20日に開催された秩父札所を巡るウォーキングイベント「第12回里山まるマルシェ」に、山崎ゼミとして出店しました。ゼミ生達はイベントの開催に至るまで、様々な地域のアクターと関わりながら、その先にある課題を学んでいます。また4年次生においては横瀬町をテーマとして、一年間をフィールドワークに費やし卒業研究を行ってきました。

このように社会と学生のニーズに対応すべく、本課題は推進されています。

【写真①-②】横瀬町役場・田端将伸氏によるゼミ生へのワークショップ（2022年5月撮影）



【写真③-⑤】「里山まるマルシェ」での山崎ゼミ学生の様子（2022年11月撮影）

